

広報 なぎじん

No. 85

1982年12月

村章

(毎月1日発行)



▲あなたの体、やわらかいですか

村教育委員会では11月20日、中央公民館において、ジョギング教室を実施した。講師は県保険体育課課長補佐の崎原好佳氏。教室には120名が参加した。崎原氏はムリなくムダなく走ることを指導。正しい走法を身につけるように強調した。

今帰仁村の人口(昭和57年10月31日現在)

人口 9,907人(+7)

()内は前月比



4,884人(-3) 5,023人(+10) 世帯数 2,781戸(-4)

編集発行：今帰仁村役場総務課秘書広報係
〒905-04 沖縄県今帰仁村字仲宗根219 電話098056-2101
印刷：沖縄高速印刷株式会社
南風原町字兼城577 電話0988-89-5513

今月の主な内容

- 二 スタートした
農業構造改善モデル事業
- 三 二頭の種雄豚を導入
優良家畜購入補助事業を実施
- 四 今年上半期の予算の執行状況
目で見える国保十年の歩み
- 五 五五年国調から
- 六 昭和六十五年の村人口は九、二九七人？
村民コーナー私の一言
伝統芸能の正しい伝承を
字兼次 玉城鎮夫
- 七 八・九創立百周年を祝う
今帰仁小で盛大に記念式典
- 十 今帰仁中学校が
国頭地区陸上で完全優勝
- 十一 謝花篤・比嘉昭子選手が優勝
県民体育大会行われる
- 十二・十三 今帰仁間切の内部構造(上)
- 十四 若き後継者たち⑥
今年からスイカ栽培を始めた
玉城久資さん
- 十五 村・字崎山が表彰
北部地区国民年金大会で

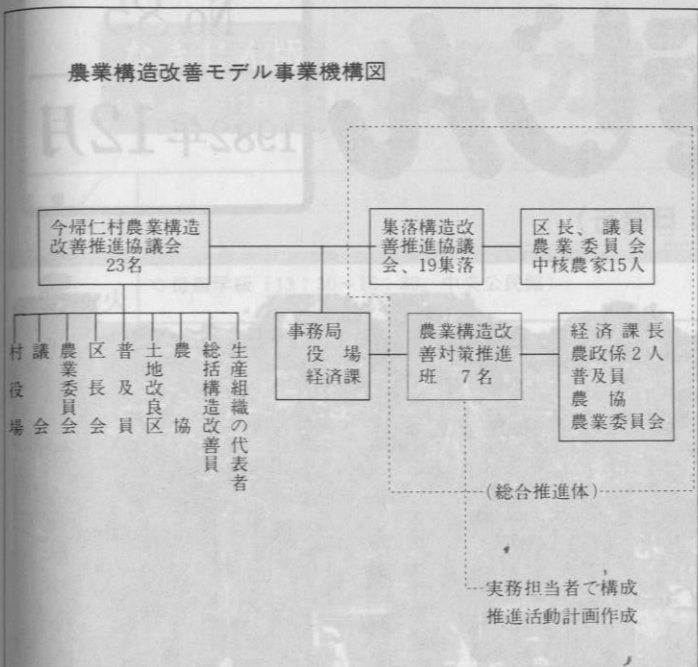
スタートした

農業構造改善モデル事業

農業団地センター・堆肥工場などを建設

村では、これまで第一次構造改善事業（昭和四十九年度～五十二年度、総事業費一億九千二百五十万円）、第二次構造改善事業（昭和五十三年～五十六年度、総事業費二億八千七百五十八万円）を実施し、村内の基盤整備ならびに生産性の向上に大きな成果をあげてきました。

そして今年度からは、農業構造改善モデル事業の計画策定が行われています。これは第三次構造改善事業のモデルとして行われるもので、県内では本村と読谷村の二村が対象となっています。なおこの事業は今年度（五十七年度）に計画を策定、五十八年度～六十年年度に実施される予定です。



これまで第一次構造改善事業では、兼次・渡喜仁の共同利用ハウス、農協共同集荷貯蔵施設、共同利用育苗施設、漁協製氷冷蔵施設等を建設。また第二次構造改善事業では、謝名ほ場整備、渡喜仁・仲尾次・崎山共同利用温室、湧川集落センターが建設されました。

今回本村で実施されるモデル事業は、農村地域型の農業構造改善事業といわれるもので、五十八年度から六十年年度までの間に小規模土地改良（兼次地区、三ヘクタール）、共同利用温室（運天および呉我山花き生産団地）、農業団地センター（事業主体：農協、堆肥工場（事業

主体：農協）、渡喜仁集落センター（渡喜仁農村振興会）、等が建設される予定です。総事業費は三億円。その中の農業団地センターは、農業機械の有効利用、農産物の処理加工を目的としたもので、農業生産物の計画的栽培協定により生産及び価格の安定を図ろうというものです。また雇用の拡大にも期待が持たれています。堆肥工場は、堆肥生産手段のない農家でも利用でき、増肥により地力の維持と生産性の向上を図ろうというものです。集落センターは、地域農家の生活・生産の改善向上を図るため、研修、組織育成強化の場にしよう、と建設されるものです。



▲各字で行なわれている推進協議会(上運天)

この事業の特徴は、推進の方法が変わったことで、従来の村推進協議会に加え、各字に集落構造改善推進協議会（十五人）を新たに設置しています。つまり、多くの村民が事業に参画し事業をスムーズに行おうという

導、事業主体の推進指導にあたっては、
なお、今後の日程としては、来年三月中旬までに研修会、調査、事業主体との調整等により計画策定を終了し、次年度（五十八年度）からの事業実施にそなえる予定です。

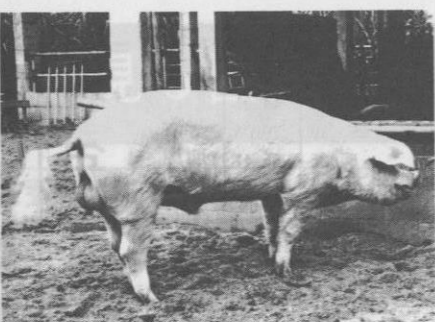
県外と県内から 2頭の種雄豚を導入

優良家畜購入 補助事業を実施

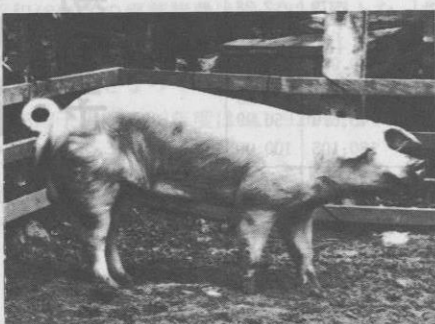
村では、豚の改良増殖を図り畜産の振興に資するため、このほど五十七年度事業として「優良種畜購入補助」を実施し、二頭の種雄豚を購入しました。これは、産肉能力直接検定合格の種豚の導入によって、本村の種

畜の改良増殖を確立しようというもの。購入の五十%を村で補助、五十%が飼養農家の負担となっています。

まず一頭目は、県外購入種豚として、先の九州地区第一回種豚共進会において金賞を受賞した種豚。飼養管理者は宇湧川五二六の田港朝明さん（TEL一三〇五一）。また、もう一頭は県内購入種豚として、県内で初めて産肉直接検定A級に合格した種豚、飼養管理者は宇崎山一五三の仲本達美さん（TEL一二七〇一）。



▶田港朝明さん管理の種雄豚



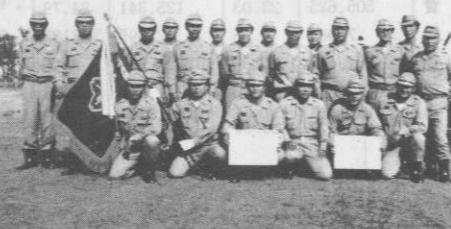
▶仲本達美さん管理の種雄豚

この二頭の種雄豚は、誰れでも気軽に利用できますので、田港さん、仲本さん、または村役場経済課（TEL一二二五六）へお申し込みください。

村消防団 ポンプ・応用操法で優勝

北部地区消防操法大会で

十一月七日名護市真喜屋野外センターで行われた第三回北部地区消防操法大会（消防協会北部地区支部）において、本村消防団（与那嶺雄源団長、団員三



〇人）がポンプ車操法と応用操法の部で優勝を飾った。（写真）大会は、北部地区消防団員の技術の向上と士気の高揚を図るとともに、消防活動の発展に寄与しようというもので、ポンプ車操法、小型ポンプ車操法、応用操法の三部門で競われた。本村消防団は、ポンプ車操法（上地正・仲村清・渡久地勝也・山城直樹・諸喜田保文）と応用操法（Aチーム―仲里生男・松本

健司・島袋剛）Bチーム―与那森男・与那嶺好和・松本浩）の二部門に出場。ポンプ車操法ならびに応用操法Bチームが優勝した。またAチームも三位に入る健闘をみせた。なお、大会の結果は次のとおり。

- ◎ポンプ車操法の部
優勝―今帰仁村、二位―本部町、三位―名護市、四位―伊江村、五位―国頭村。
- ◎小型ポンプ車操法の部
優勝―本部町、二位―名護市、三位―国頭村、四位―名護市羽地。
- ◎応用操法の部
優勝―今帰仁村B、二位―本部町、三位―今帰仁村A、四位―名護市A、五位―名護市B、六位―伊江村、七位―国頭村。

身も心も軽やかに

第九回老人婦人スポーツ大会開催

気ばかりあせて足がもつれる人、リレートの相手を間違ったり、はたまた追うボールを見失ったり……、いつもながらのユーモラスな老人婦人スポーツ大会の一コマです。大会は、老人と婦人が一堂に集い親睦と体力向上を図ろうと毎年開催されており、第九回大会は十一月三日午前九時より村営グラウンドで行われました。

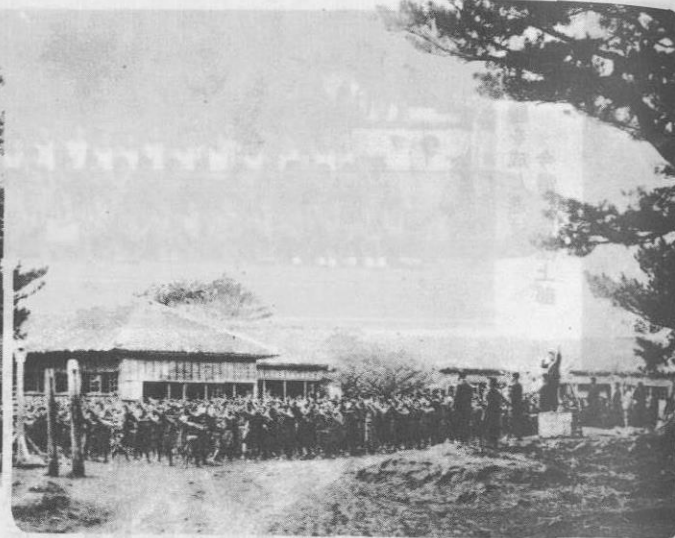
当日は秋晴れの絶好のコンディション。入場行進、開会式に続き、老人による玉入れで幕をゆき、ゲームなど、二十一種目に熱演を展開。また小中学生



の学年リレー、職域リレー、団体リレーもあり、大会に花をそえていました。



▲100周年記念事業による中庭造園

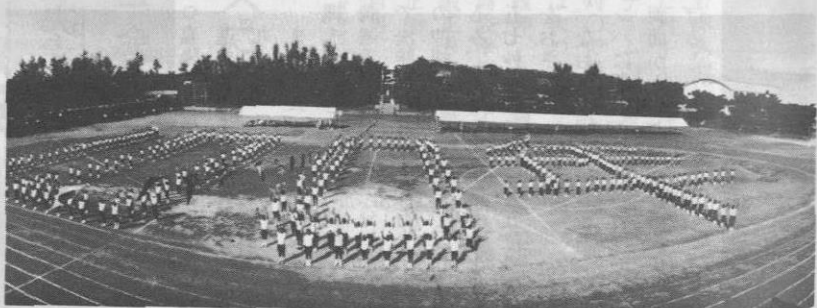


▲大正中期の今帰仁小学校



▲創立七十年記念式典
(昭和二十七年十二月二十五日)

※古い写真については、今帰仁小学校より、また運動会の写真については大嶺写真館より、それぞれ提供していただきました。



▶百周年記念運動会

- 昭和32年4月12日 文教局指定算数実験学校となる。
- 昭和34年2月3日 文教局指定算数実験校研究発表会
- 昭和37年12月27日 創立八十周年記念図書館落成
- 昭和38年2月10日 創立八十周年記念式典挙行
(眞作曲)
- 昭和41年6月28日 緑化優良校として琉球緑化推進本部長より表彰
- 昭和42年1月24日 村教育委員会指定音楽研究発表会
(読譜指導)
- 昭和46年4月1日 今帰仁小学校公立附属幼稚園設置
(二学級七六八)
- 昭和47年10月4日 創立九十周年記念体育館竣工
- 昭和47年11月11日 創立九十周年記念式典挙行
- 昭和49年12月12日 県指定学校図書館モデル校研究発表会(県内各地から三百五十名参加)
- 昭和53年5月 県教育委員会指定体力づくり推進校となる。(向う三か年)
- 昭和55年12月16日 県指定体力づくり推進校最終発表会
- 昭和56年11月19日 保健体育優良校として全国学校体育研究連合会(後援文部省)より表彰される。
- 昭和56年12月19日 米須(一年)、金城(四年)全島童話会で優勝
- 昭和57年6月23日 創立百周年を迎える。
- 昭和57年10月31日 百周年記念式典

記念事業(中庭の造園、視聴覚室の内部施設、記念誌の発行)

創立100周年を祝う

今帰仁小で盛大に記念式典



▲創立百周年記念式典(昭和57年10月31日)

明治十五年六月二十三日に開校した今帰仁小学校(山内昌敬校長、児童三九二人)が今年で創立百周年を迎え、十月三十日、三十一日の両日盛大に記念式典が挙行された。

まず、三十日の午後三時から記念パレード。三十一日午前九時から全児童・職員・父兄が見守る中、山内校長、新垣侃期成会長、大城ひとみ児童会長により記念碑の除幕が行われた。飛躍とかかれた記念碑があらわれると、場内から盛んな拍手がおこった。

午前十時からは児童の部の記念式典、午後二時からは一般の部の記念式典が同校体育館で行われた。一般の部の記念式典に約六百



▲百周年記念碑の除幕

人の同窓生、関係者が参加。山内校長の式辞の後、松田村長、大城教育長、新垣期成会長、同窓生代表の島袋喜厚氏、児童代表の大城ひとみさんがあいさつを述べた。次いで、歴代校長、歴代PTA会長、記念事業功労者あわせて七十九名に感謝状が贈られた。式典終了後祝賀会があり、校区をあげて百周年を祝った。なお記念事業として、中庭の造園、視聴覚室の内部施設、記念誌の発行もあわせて行われている。

また、当日並びに前日は村内各地で同期生会が持たれ、数十年ぶりの再会を喜びあっていた。

百年のあゆみ

- 明治15年6月23日 今帰仁小学校と称し謝名三五番地に旧村学校の建物を使用して開校
- 明治21年4月1日 今帰仁尋常小学校と改称し兼次村北屋敷五九番地に移転
- 明治32年4月1日 高等科を併置し今帰仁尋常高等小学校と改称、現敷地に移転
- 大正8年4月1日 兼次、天底、古字利に高等科が併置されたので本校の校区は崎山、平敷、謝名、仲宗根、玉城の五か字となる。
- 昭和7年6月 創立五十周年記念式典挙行
- 昭和16年4月 学制改正により今帰仁国民学校と称す
- 昭和17年10月 創立六十周年記念式典挙行
- 昭和20年12月3日 戦争のため昭和二十年三月二十五日以降休校中のところ開校、今帰仁初等学校と称す
- 昭和21年1月20日 各字の供出によりテント校舎八教室建設
- 昭和21年4月1日 今帰仁初等学校と改称(初等科六年、高等科二年)
- 昭和21年12月1日 木造茅ぶき六教室建設(仮校舎完備)
- 昭和23年4月1日 学制改革六・三・三制の実施により今帰仁中学校、創立され本校は六年生までとなる。
- 昭和27年4月 琉球政府創立初等学校を小学校と改称す。
- 昭和27年12月25日 創立七十周年記念式典挙行(記念事業、簡易水道)

今帰仁中学校が

国頭地区陸上で完全優勝

女子・総合は二連覇



完全優勝を成し遂げた今帰仁中陸上部

十月二十四日名護市宮城競技場で行われた第九回国頭地区中学校陸上競技大会で、今帰仁中学校(祖慶良賢校長、生徒数三三三人)が、男子・女子・総合の完全優勝を成し遂げた。女子・総合は昨年に次いで二連覇。また、十一月十四日同じく名護競技場で行われた第二四回県中学校陸上競技大会にも、同中から二四名が出場、うち久田浩也選手が百、二百、三輪直美選手が百、二百にそれぞれ優勝、また他の選手もリレーなどの競技に活躍し、国頭優勝の原動力となった。

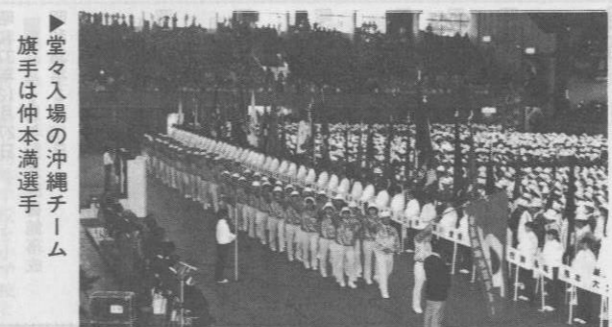
全国青年大会陸上で活躍

村青年会の六人の選手

十一月六日・七日、国立競技場で開かれた日青協主催による「全国青年大会陸上の部」に、村青年会から六人の選手が沖縄県代表として出場し、各選手とも奮闘しました。結果は次のとおりです。

- 古堅監督は「可能性がないといわれた生徒でもリレーメンバーは父兄の間からクレームがついたほどのハードさだが、全部員が一人の落後者もなく元気にのりこえた。」
- 古堅監督は「可能性がないといわれた生徒でもリレーメンバーは父兄の間からクレームがついたほどのハードさだが、全部員が一人の落後者もなく元気にのりこえた。」
- 古堅監督は「可能性がないといわれた生徒でもリレーメンバーは父兄の間からクレームがついたほどのハードさだが、全部員が一人の落後者もなく元気にのりこえた。」

- 十一月六日・七日、国立競技場で開かれた日青協主催による「全国青年大会陸上の部」に、村青年会から六人の選手が沖縄県代表として出場し、各選手とも奮闘しました。結果は次のとおりです。
- 古堅監督は「可能性がないといわれた生徒でもリレーメンバーは父兄の間からクレームがついたほどのハードさだが、全部員が一人の落後者もなく元気にのりこえた。」
- 古堅監督は「可能性がないといわれた生徒でもリレーメンバーは父兄の間からクレームがついたほどのハードさだが、全部員が一人の落後者もなく元気にのりこえた。」



堂々入場の沖縄チーム旗手は仲本満選手

スポーツコーナー・スポーツコーナー・スポーツコーナー

スポーツコーナー

謝花篤選手が100で優勝 比嘉昭子選手が400、800で優勝

県民体育大会行われる

十月三十一日、十町村が参加して名護市宮城陸上競技場で行われた「第三七回国頭郡陸上競技大会」で、本村が男子三位、女子二位、総合三位と、これまでにない好成績をおさめた。大会での三位までの村選手は次のとおり。(赤印は新記録)

- 男子百—謝花篤十一秒一
- 女子百—比嘉昭子一分二秒六
- 一万—石川達義三分四十分六秒
- 三千SC—浜里正己九分五十一秒八
- 女子八百—比嘉昭子二分二秒九
- 男子走巾跳—大嶺敦六m三八
- 四百R年齢別(大嶺敦、謝花篤、大城正秀、仲宗根武一)四五秒七
- 四十代百—諸喜田信夫十二秒四
- 千五百—上間哲四分十六秒二
- 女子二百—比嘉昭子一分二秒六
- 女子四百—比嘉昭子一分二秒六
- 五千—石川達義五分五八秒六
- 四百H—島袋幸輝一分〇秒三位
- 三十代走高跳—山田重実一メートル六五
- 女子やり投—玉城明美二九メートル十二
- 女子走高跳—親川香利一メートル三五

十月二日、三日東京の国立競技場で行われた「第三回全日本マスターズ陸上選手権大会」に、村出身者六人が出場しました。この大会は全国の中高年齢者を対象にしたもの。出場したのは、写真左から喜納一雄、新城勝、仲宗根武一、仲本光秀、上間芳郎、上間哲男の六氏。



野球大会に郡代表として出場した村チームは、一回戦で優勝チームの宜野湾市と対戦し、一対〇で惜敗した。出場した選手は次のとおり。島袋幸輝、宮里政伸、与那嶺勝明、運天英彦、島袋幸輝、上間哲、仲本満、大城正秀、新城満、玉城昇、山城正樹、大嶺敦、国吉清光、平田哲男。

北山高駅伝部へのカンパ集まる!

今帰仁間切の内部構造 (上)

勤職書・辞令書にみる

今日のように「村」がソクと呼ばれるようになったのは、「沖繩県島嶼町村制」(明治四十一年三月公布・翌四十二年四月施行)が実施されるようになってからである。今帰仁というならば、それまでは今帰仁間切と呼ばれていた。「間切」が、いつごろから使われたのか確かなことはわからない。文献をさかのぼっていく限りにおいては、十六世紀初頭にもみることができ、例えば、奄美大島の辞令書に次のように出てくる。

しよりの御ミ事

かさりまきりの

しよりの大やこハ

嘉靖二年四月五日

この辞令書は、嘉靖二年(一五二三年・尚真王四十六年)四月五日発給されたものである。笠利間切と行政区画を示す間切

が使われている。尚真王の時代に、喜界島を含む琉球全域に辞令書が発給されていたとみられ、辞令書が発給されていたこの時代には、すでに間切という行政区画を表わす呼び方が一般的になされていたとみてよからう。

万暦年間の辞令書で、今帰仁間切と関わりのある辞令書のいくつかをあげてみると、

しよりの御ミ事

ミヤきせんまきりの

よなみねのうちまらち

万暦十四年五月九日

しよりの御ミ事

みやきせんまきりの

よなみねのさとぬしところ

万暦二十年十月三日

しよりの御ミ事

みやきせんまきりの

中くすくのろハ

もとののろのくわ

万暦三十三年九月十八日

右にあげた今帰仁間切と出てくる三つの辞令書は、万暦年間(一五七三―一六一九年)発給の辞令書である。他の地方の辞令書で、嘉靖年間(一五二二―一五六六年)から万暦年間にかけてのものに「……まきり」と出てくる。このように行政区画を示す「間切」が使われていることは、首里王府を頂点とした支配権力の地方への浸透をうかがわすものである。

国頭地方の間切数は、今帰仁間切から本部間切(一六六六年)・読谷山間切と金武間切(一六七三年)の分割設置以後は九間切である。徐葆先の「中山伝信録(一七二一年)の中に、「山北は、国頭省(国頭方)で属府(間切)は九である。府は土名

で間切と称し、間切に所属するものは、すべて村頭と称し、土名で母刺と称す」とある。首里について「王宮の所在する所は間切と称せず」とあり、当時から王府のある首里は、特別地区であった。首里を除いた他の地域を間切と称す行政区画をなしていた。沖繩本島の間切の分割新設は、羽地朝秀(向象賢・一六一七―一七五五年)の時代のことと、その後は間切の変動はあまりなかった。

六年三月二日 飯惣山當
四月十日 飯惣山當
六年四月 飯惣山當
九年三月 飯惣山當
九年四月 飯惣山當
十一月正月 惣山當
三年三月 惣山當
六年十二月 湧川村下知人
六年 月 玉城村下知人
六年 正月 惣山當
八年十二月 惣山當
九年 正月 惣山當

現在の村が、間切といわれていた時代の行政組織については、「沖繩旧慣地方制度」にあるが、身近にある資料でもう一度検討してみることにする。まず、資料として使うのは、「勢理客村湧川親雲上勤職書」と「本部間切謝花村惣耕作當仲里善太郎辞令書」と「今帰仁間切諸喜田福保勤職書」の三点である。本稿では、三資料に表われた役職をとおりあげ、とり出した役職についての説明は、次回にゆずることにする。

「勢理客村湧川親雲上勤職書」は、前の部分が失われており、現存する部分は咸豊二年(一八七〇年)から同治九年(一八七九年)までの経歴を記したものである。現物の大きさは、縦二六・五センチメートル・横二〇・五センチメートルくらいのもので、八ページのものである。二七条程あり、湧川親雲上の経歴が記されている。勤職書に表われた湧川親雲上の役職をとりあげると次のようになる。

六年三月二日 飯惣山當
四月十日 飯惣山當
六年四月 飯惣山當
九年三月 飯惣山當
九年四月 飯惣山當
十一月正月 惣山當
三年三月 惣山當
六年十二月 湧川村下知人
六年 月 玉城村下知人
六年 正月 惣山當
八年十二月 惣山當
九年 正月 惣山當

「今帰仁間切岸本村湧川親雲上(一七二一年)」「今帰仁間切地頭代諸喜田、惣耕作當湧川(一七三一年)と湧川につく人物が出てくるが、「勢理客村湧川親雲上(一八七〇年で六十余歳)とは百年以上の違いがある。また、氏が地頭代職についたかどうかこれまでの調査では、はっきりしていない。今後、調査を必要とするところである。

「本部間切謝花村惣耕作當仲里善太郎辞令書」は、本部町字具志堅仲里家蔵のものである。今帰仁間切に属するものではないが、後述する「旧慣地方制度」にみる間切時代の役職と同時に、氏の辞令書で昇職の過程を正確につかむことができる資料である。辞令書の発給年月日と役職名を掲げると次のとおりである(本部町の文化財第一集)。

明治

十二年十二月元日 西掟

十三年十月九日 南風掟

十五年二月六日 大掟

十六年七月五日 首里

大屋子 勘定主取

小濱村 大地頭

謝花村 下知人

惣耕作當

三年四月十日

勤定主取 仲里善太郎 本部間切惣耕作當 命 沖繩縣廳 明治三十二年四月五日

「本部間切仲里善太郎辞令書(本部町の文化財より)」

氏は、明治十二年の西掟にはじまり南風掟・大掟・首里大屋子・勘定主取(兼務)・夫地頭・下知人(兼務)を経て惣耕作當まで昇職している。これらの辞令書の発給は、沖繩県・沖繩県廳となっており、謝花村下知人になった時の辞令書は、沖繩縣國頭役所となっている。右にあげた八点のほかに「依頼職務ヲ免ス」と記された辞令書もある。

明治

元年九月一日 捌庫理代理

二年一月六日 西掟

二年一月六日 西掟

五年九月五日 兼次夫地頭

七年八月五日 惣山當代理

十年四月

である。現物の大きさは、縦二六・五センチメートル・横二〇・五センチメートルくらいのもので、八ページのものである。二七条程あり、湧川親雲上の経歴が記されている。勤職書に表われた湧川親雲上の役職をとりあげると次のようになる。

六年三月二日 飯惣山當
四月十日 飯惣山當
六年四月 飯惣山當
九年三月 飯惣山當
九年四月 飯惣山當
十一月正月 惣山當
三年三月 惣山當
六年十二月 湧川村下知人
六年 月 玉城村下知人
六年 正月 惣山當
八年十二月 惣山當
九年 正月 惣山當

士年四月 惣耕作當代理
士年五月六日 運天村下知人
三年十月三日 惣耕作當代理
志年九月五日 惣耕作當代理
九年三月五日 惣耕作當代理
三月七日 惣耕作當代理
九年五月七日 惣耕作當代理
六年九月元日 惣耕作當代理
三年六月七日 地頭代理
七月六日 地頭代理
三年八月二日 地頭代理
八月四日 地頭代理
三年一月九日 地頭代理
一月七日 地頭代理
元年九月三日 地頭代理
元年三月 地頭代理

氏は、捌庫理代理・西掟・夫地頭・惣山當代理・惣耕作當代理・下知人・惣耕作當・地頭代理さらには間切における最高職である地頭代までなる。

明治

元年九月一日 捌庫理代理

二年一月六日 西掟

二年一月六日 西掟

五年九月五日 兼次夫地頭

七年八月五日 惣山當代理

十年四月

Smokin Clean 守つてますか 大切な煙マナー

ちょっとした心づかいも味のうち 日本専売公社

なきじん版

12月1日～1月1日

村民カレンダー



12/1 水	○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)	17 金	○中央高齢者教室 (14:00、中央公民館) ○はしか予防接種 (13:00~14:00、役場ホール) ○農業委員会定例会 (10:00、役場2階研修室)
2 木	○健康体操 (20:00、謝名公民館)	18 土	○健康相談 (8:30~12:00、保健婦室) ○ホッケー教室 (15:00、村営グラウンド)
3 金		19 日	○老人地域交流会 (14:00、呉我山公民館)
4 土	○人権週間 (~10日まで) ○第1回村内ソフトボール大会 (体協主催、13:00、村営グラウンド)	20 月	○区長会 (14:00、役場ホール)
5 日	○第1回村内ソフトボール大会 (体協主催、9:00、村営グラウンド)	21 火	○乳児相談 (13:00~15:00、役場ホール)
6 月	○肉用牛セリ市 (12:00、家畜セリ市場) ○区長会 (14:00、役場ホール)	22 水	○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)
7 火	○農業構造改善モデル事業研修 (那覇) ○平和祈願祭 (14:00、村慰霊塔前)	23 木	○健康体操 (20:00、謝名公民館) ○年末年始交通安全運動 (1月5日まで)
8 水	○家庭教育学級 (14:00、中央公民館) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)	24 金	
9 木	○健康体操 (20:00、謝名公民館)	25 土	○健康相談 (8:30~12:00、保健婦室) ○ホッケー教室 (15:00、村営グラウンド)
10 金	○1歳半健診 (13:00~14:30、役場ホール) ○人権相談 (10:00、中央公民館)	26 日	○子豚セリ市 (13:00、家畜セリ市場)
11 土	○健康相談 (8:30~12:00、保健婦室) ○ホッケー教室 (15:00、村営グラウンド) ○乳幼児学級 (14:00、中央公民館)	27 月	
12 日	○老人ゲートボール大会 (8:00、村営グラウンド) ○第16回青年駅伝大会 (12:30~、役場前)	28 火	
13 月	○3歳児健診 (13:00~15:00、役場ホール) ○村議会定例会	29 水	
14 火	○北部地区老人レク大会 (10:00、北部会館) ○生活環境整備事業講演会 (8:00、湧川公民館)	30 木	
15 水	○中央婦人学級 (14:00、中央公民館) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館) ○葉タバコ耕作組合総会 (14:00、役場ホール)	31 金	
16 木	○はしか予防接種 (13:00~14:00、役場ホール) ○健康体操 (20:00、謝名公民館)	1 土	○正月

■皆さんにとって今年一年どういった年だっただろうか。十二月は忙月ともいわれ、最もせわしい月。それでも毎日がポカポカ陽気。南国といえど異常気象といえるのではないだろうか。

■クリスマス・正月もあわずか。シングルベルの音がにわかにあわたしさを感じさせてくれる。それにしても、年末にはコートと冷たい風がよく似合う。

■年の暮れを機に、今年一年間の総決算をしてみませんか。良かったこと、悪かったこと、色々と反省することによって、来年の決意をあらたにしたもの。

■今年も、一年間広報を毎月発行できた安堵感にひたっている内容よりも定期的な発行が大切だ、と思うのはやはり逃げ道を作っているのだろうか。広報で綴るこの一年。ページをめくってみてはいかがでしょう。

■一年間広報におつき合いました。来年もよろしくお願いたします。

編集後記

